

2019年度 小委員会活動成果報告

(2020年2月20日作成)

小委員会名	伝統的木造建築物構造設計検証小委員会	主 査 名：大橋好光 就任年月：2019年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (木質構造運営委員会)	委員長名：塩原 等 主 査 名：河合直人
設 置 期 間	2019年4月 ～ 2022年3月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>3年間「伝統的木造建築物設計事例整備小委員会」において、学会の「限界耐力計算による伝統的木造建築物構造計算指針」に基づき、設計事例を作成してきた。しかし、上記の指針が、耐力壁や接合部などの要素のデータが必ずしも十分でなく、前半は、それらのデータの収集と設計法の作成に時間を費やした。その後、前述の作業が概ね、収束したことから、初期の目標である設計事例の作成を実施してきた。住宅規模2例と、寺院建築1例について、概略の設計事例をまとめた。しかし、それらも出版物にするには、まだ、十分には細部が詰められていない。また、設計事例も十分ではない。そこで、それらの精査と事例の追加を中心に委員会を開催し、更に、それらの設計事例の構造設計プロセスについて、設計を行っている実務者らに意見を求め、その妥当性・合理性を検証する。当小委員会の結果は、上記指針の改定版として出版を目標とする。</p> <p>初年度： ①「限界耐力計算による伝統的木造建築物構造計算指針」の構造要素の設計法を完成させる。 ②「住宅タイプ1」、「住宅タイプ2」の設計例を精査・検証する。</p> <p>2年度： ①「寺院タイプ1」の設計例を精査・検証する。 ②「社寺タイプ2」の設計例をまとめる。</p> <p>3年度： ①以上をまとめて、「限界耐力計算による伝統的木造建築物構造計算指針(改定版)」をまとめる。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <p>主査：大橋好光(東京都市大学) 幹事：中尾方人(横浜国立大学大学院)、藤野栄一(職業能力開発総合大学校) 委員：河合直人(工学院大学)、坂田弘安(東京工業大学)、荘所直哉(明石工業高等専門学校)、北守顕久(京都大学生存圏研究所)、山崎義弘(建築研究所)、山田耕司(豊田工業高等専門学校)、佐藤弘美(金沢工業大学)、宮本慎宏(香川大学)、宇都宮直樹(近畿職業能力開発大学校)、清水秀丸(椋山女学園大学)、横内基(国土館大学) 中川貴文(京都大学生存圏研究所)</p>	
設置WG (WG名:目的)	伝統的木造建築物設計例WG：委員の構成は大学関係者が多いため、設計例を作成するために実務に長けた委員を中心にWGを構成する。	
2019年度予算	120,000円	ホームページ公開の有無：無 委員会HPアドレス：—

項 目	自己評価
委員会開催数	8回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> 「限界耐力計算による伝統的木造建築物構造計算指針」の要素の設計法を検討した。 設計例3棟について、その構造設計を検討した。 構造計算書の共通フォーマットを検討した。
委員会活動の問題点・課題	1. 予算が少ないために、遠方の委員の出席率が低い。